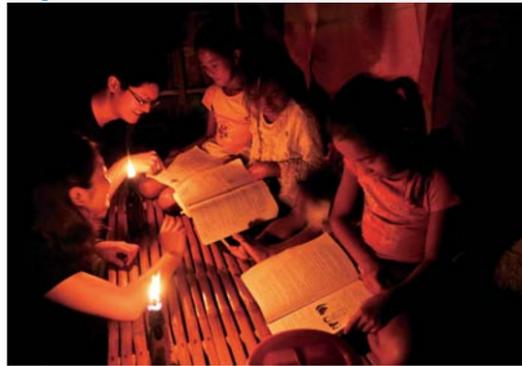




たテクノロジーが、現地の人々の生活にどのようなインパクトを与えるのか JAL Face book ページ上で公募したレポーターを現地に派遣し、レポートしていただく取り組みが「JAL テック・レポーター」です。マイルをご寄付いただいた JMB 会員の皆さまに効果をきちんとご報告するとともに、日本と世界を結び、実地体験をお手伝いする役割をもつ航空会社として、これからの社会を担う若い世代が現地を訪れることで、世界に目を向ける機会を提供したいと考え、実施しています。



語られています。また、現地を訪れて自分の目で見、体験し、違う環境で暮らす人々と交流することを通じて気づいたことも併せて綴られました。若いレポーターたちは、実地での体験から、単に途上の現状を知るだけにとどまらず、多くのことを学んだようです。

テック・キャラバンを 日本各地で展開中

また、もうひとつの取り組みである「JAL テック・キャラバン！」では、日本各地の企業や大学を訪ねて途上の現状やニーズを紹介し、途上国向けの製品を発売するとともに、新たなビジネスの可能性を提示しています。2014年は6月に秋田、11月に北九州で開催し、各地の産業や経済の活性化にもお役に立てるよう取り組んでいます。

JAL×コペルニク 『人をつなく、世界を結ぶ。プロジェクト』活動レポート vol.2 フィリピンの診療所にソーラーライトを届けよう！



JAL グループは、「日本と世界を結ぶ」「安全・安心」「次世代育成」「環境」という4つの分野における独自の CSR 活動に加え、非営利団体（NPO）との協働にも取り組んでいます。そうした NPO とのコラボレーションのひとつとして、2013年6月からスタートした JAL×コペルニク『人をつなく、世界を結ぶ。プロジェクト』の活動の近況をご報告します。



強みを持ち寄り、 課題解決に取り組む

「コペルニク」は、途上国で必要とされるテクノロジー（製品）を世界中から発掘し、インターネット上で寄付を募って、必要とされているところに現地価格で届ける活動を行っている NPO です。JAL×コペルニク「人をつなく、世界を結ぶ。プロジェクト」では、コペルニク・スタッフの移動のための航空券を提供することに加え、それぞれのリソースや強みを持ち寄り、さまざまな取り組みを共同で行っています。

フィリピンの診療所に ソーラーライトを

そのひとつが、JAL チャリティ・マイルを通じたコペルニク・プロジェクトの支援。2013年の「インドネシアの学校に浄水器を送ろう！」という取り組みに続き、2014年は「フィリピンの診療所にソーラーライトを届けよう！」チャリティ・マイルを実施しました。

フィリピンには、電気が利用できない地域や、安定的な電力供給が受けられない地域があります。2014年5月20日から約3カ月間実施したチャリティ・マイルには、903名の JAL マイレージバンク（以下、JMB）会員の皆さまより合計352万2000マイルをご寄付いただき、そうした地域の診療所や学校などの公共施設に612台のソーラーライトを届けることに繋がりました。夜間や曇天時のさまざまな作業がより安全、かつ効率的に行うことができるようになり、生活上の安全性の向上や収入の増加が期待されます。

次代を担う若者に 実地体験の機会を

チャリティ・マイルにより届けられ



現地の人々に学んだ 人として大切なこと

立命館アジア太平洋大学（開発学専攻）
新井悠子さん



診療所では、お産の途中で停電することがあり、ろうそくで灯りをとると説明を受けましたが、明るい分娩室しかイメージしなかった私には、そのようなお産は想像しがたいものでした。助産師さんはソーラーライトにとっても喜び、持ち運びもできるので、自宅出産の立ち会い時にも使いたいと話してくれました。また、子どもたちの高い学習意欲には、とても驚きました。ソーラーライトを使う家では、親戚の子どもたちが集まり、夜遅くまで一緒に勉強するようになったと聞き、ソーラーライトが生活環境の改善だけでなく、子どもたちの将来を大きく変えるきっかけになることがわかり、うれしくなりました。

今回の訪問で、専攻している開発学の理解を深める以上に、厳しい環境でも必死に何かに取り組み、笑顔忘れず人を思いやる現地の方々の姿に、人として大切なことを学びました。

■JAL テック・レポーターの報告は抜粋です。報告の全文やプロジェクトの詳細は、こちらをご参照ください。
www.jal.com/ja/csr/important/bridge/kopernik/index_2014.html

外からの援助で ひとつずつ課題解決を

東京理科大学大学院（機械工学専攻）
藤平圭亮さん



途上国に対するこれまでの私のイメージは、インフラ不足など物質的な面ばかりで、そこに暮らす人々について考えたことなどありませんでした。竹でできた家に住み、灯油ランプで灯りをとる質素な暮らしのなかにも、私たちと同じように家族がいて、笑顔で幸せに暮らしている、という当たり前のことに今回初めて気がついたのです。

診療所の課題解決に取り組む女性の話では、環境改善に向けた外からの援助の必要性を実感。もちろんソーラーライトだけでは不十分ですが、こうしてひとつずつ問題を解決することが、理想の診療所に近づく確かな道だと思いました。

これまで私は、自分の国や医療のことなどを深く考えたことがなく、視野の狭さを痛感しました。これからは、普段から自分の身の回りのこと以外にもしっかりと目を向け、きちんと考えていきたいです。

■JAL 東北応援プロジェクト「航空関連品チャリティ・バザー」のお知らせ
2015年3月8日、羽田空港国内線第1旅客ターミナルビル「ギャラクシーホール」にて、モデルプレーン、航空機ポスター、機内用品などを販売するチャリティ・バザーを開催！ 収益はすべて、東日本大震災で被災した子どもたちの応援に活用します。詳細は、www.jal.com/ja/csr/bazaar/ まで。

私たちが取り組むCSR活動に関する詳細は、こちらでもご覧いただけます。 www.jal.com/ja/csr/